

2026(令和8)年度 沖縄国際大学一般選抜試験問題

【選択科目：地理探究】

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 志願票及び受験票に記入された科目を解答すること。
3. 志願票及び受験票に記入された以外の選択科目を解答した場合は、無効とする。
4. 筆記用具は、鉛筆（HB）または、0.5ミリのシャープペンシル（HB）に限る。
5. 問題の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してもよい。
7. 試験終了後、解答用紙のみを提出すること。問題冊子は持ち帰ること。

2026(令和8)年度 沖縄国際大学一般選抜試験問題

【地理探究】

※ 解答はすべて解答用紙に記入すること。

I 地球環境問題に関する文章を読んで下記の問いに答えなさい。

温室効果ガスは大気中にあり、地表から放射される の大部分を吸収し、その を地表に戻し、温室効果を引き起こす。その結果、地球の平均気温は約 15℃ に保たれている。しかし、近年、人間の経済活動により二酸化炭素やメタン、水蒸気などの温室効果ガスが増加し、地球の平均気温が^{a)}上昇している。

地球温暖化により、海水が したり、氷河などが溶け出したりして海面が上昇すると、世界中の平野や島が水没する危険性がある。また、海水温の上昇はサンゴの白化現象を引き起こす一因となっている。日本付近では、真夏の気温が上昇することにより、 などの健康被害の増加、西日本で米の収穫量の減少が予想されている。世界では干ばつによって農業が困難になる地域がある一方で、豪雨による水害が頻発する地域も出てきている。

これまでエネルギー消費の多い は大量の二酸化炭素を排出してきたが、近年、一部の も二酸化炭素の排出が急増している。温室効果ガスの排出を削減するため、1997 年に が^{c)}採択された。2000 年代に入り、太陽光発電や風力発電、生物に由来するエネルギーの などが急速に導入された。2015 年には、すべての国・地域が参加する初めての国際的な枠組みである が採択された。

大気汚染は、 の燃焼時に生成される硫酸化物や窒素酸化物などの大気汚染物質が、大気中に排出されることによって発生する。硫酸化物や窒素酸化物が大気中で化学変化を起こして硫酸や硝酸となり、雨や雪、霧などに溶け込んで地上に降り注ぐのが酸性雨である。太陽の強い によって窒素酸化物などが化学反応を起こすと、 が発生する。ドイツや北ヨーロッパ諸国では 1980 年代まで酸性雨被害が頻発した。

大気汚染は偏西風や季節風によって発生源以外の国にも広がるため、国を超えて広がる越境大気汚染が問題となっている。日本で観測される PM2.5 などの大気汚染物質の一部は中国から^{d)}飛来すると考えられている。国境を超える大気汚染の問題は、対策が遅れている発展途上国に対して、日本などは の燃焼時に発生する有害な硫黄分を除去する の設置支援などを進めている。

問1 ～ にあてはまる語句を、下記の【語群】から選択して記号で答えなさい。
(各1点)

【語群】

- | | | | |
|---------|----------|----------|-----------|
| ア. 化石燃料 | イ. 京都議定書 | ウ. 紫外線 | エ. 赤外線 |
| オ. 先進国 | カ. 脱硫装置 | キ. 脱硝装置 | ク. 熱エネルギー |
| ケ. 熱中症 | コ. 熱膨張 | サ. 発展途上国 | シ. パリ協定 |

問2 下線 a) について、産業革命以降、二酸化炭素が増加した要因を答えなさい。(4点)

問3 下線 b) に関連して、サンゴの白化現象の特徴、また、サンゴ礁の保全に関する地域対応を答えなさい。(特徴：5点、地域対応：3点)

問4 下線 c) に関連して、次の図1は、世界の二酸化炭素排出量を国別で示したものである。図1・図2の①～④にあてはまる国名を、下記の【語群】から選択して、記号で答えなさい。
(各1点)

【語群】

- | | | | |
|------------|--------|------------|---------|
| ア. アメリカ合衆国 | イ. インド | ウ. サウジアラビア | エ. メキシコ |
|------------|--------|------------|---------|

著作権承諾上の理由により、図の掲載は控えさせていただきます。
非公開部分については、沖縄国際大学入試センター窓口にて閲覧ください。

著作権承諾上の理由により、図の掲載は控えさせていただきます。
非公開部分については、沖縄国際大学入試センター窓口にて閲覧ください。

図1 世界の二酸化炭素排出量
統計年次は2021年、世界統計年鑑より作成

図2 国・地域別の一人当たりの二酸化炭素排出量
統計年次は2021年、世界統計年鑑より作成

問5 と に入る語句を記入しなさい。(各2点)

問6 下線 d) に関連して、中国での大気汚染の要因をエネルギーと交通に関連づけて、また人的な被害状況を答えなさい。(5点)

II ラテンアメリカの工業化と経済発展に関する文章を読んで下記の問いについて答えなさい。

ラテンアメリカ諸国の経済は、長らく鉱産資源などの一次産品の輸出によって支えられてきた。ベネズエラの ① やブラジルの ② 、メキシコやペルーの ③ など、ラテンアメリカには豊富な鉱産資源が存在し、現在でも世界有数の生産量を誇っている。

ラテンアメリカの鉱産資源の開発は、④ の投資と密接に結びついて進展してきた。19世紀以降、⑤ や ⑥ などの企業は、資本と技術を投入して鉄道や通信施設を整備し ⑦ に取り組んできた。⑦ に伴って整備されたインフラや輸出によって得た外貨などは、後の工業化の基盤となった。

ラテンアメリカでは、20世紀半ばに工業化が進んだ。当初は政府主導で輸入代替型の工業化が促進され、外国資本が積極的に導入された。メキシコでも輸入代替型の工業化^{a)}が進展したが、1960年代後半からは、輸出指向型の工業化^{b)}が進められた。アメリカ合衆国との国境沿いには、マキラドーラ制度^{b)}の下で、自動車部品や電子部品を製造する輸出向けの加工工場が集積した。1994年にNAFTA^{c)}が発効した後は、多くのアメリカ合衆国の企業がメキシコに生産拠点を移し、メキシコ^{c)}の工業化に貢献した。しかも、2020年に発効した米国・メキシコ・カナダ協定^{d)}以降、メキシコに生産拠点を置く多国籍企業^{e)}の動向などが注視される。

一方、ラテンアメリカ全体^{e)}の経済統合に向けた動きも進んでおり、1995年には南米南部共同市場^{f)} (MERCOSUR) が発足した。

問1 ① ～ ⑦ にあてはまる語句を下記の【語群】から選択して記号で答えなさい。

(各1点)

【語群】

- | | | | |
|-------|------------|---------|----------|
| ア. 金 | イ. 鉄鉱石 | ウ. 原油 | エ. 銀 |
| オ. 銅 | カ. 国内資本 | キ. 海外資本 | ク. ヨーロッパ |
| ケ. 中国 | コ. アメリカ合衆国 | サ. 日本 | シ. 鉱山開発 |

問2 下線 a) の輸入代替型の工業化について説明しなさい。(5点)

問3 下線 b) の輸出指向型の工業化について説明しなさい。(5点)

問4 下線 c) NAFTA の正式名称を漢字で書きなさい。(2点)

問5 下線 d) の米国・メキシコ・カナダ協定の略称をアルファベットで書きなさい。(2点)

問6 下線 e) の多国籍企業の特徴について説明しなさい。(5点)

問7 下線 f) に示した南米南部共同市場(MERCOSUR)が設立した目的について説明しなさい。
(5点)

Ⅲ 集落の成り立ちに関する文章と、1919年発行地形図と2015年発行の地形図を見て、下記の問いに答えなさい。

問1 古い時代に成立した集落の立地は、周辺の地形や ① の得やすさ、日当たりなどの ② 条件と深い関わりがある。また主要な交通路上や河川の合流部、 ③ に適した臨海部といった ④ の交通に便利な所など、社会条件とも深く関わっている。(各1点)

【語群】

ア. 扇状地 イ. 自然 ウ. 港 エ. 水 オ. 水陸 カ. 道路

問2 1919年発行の地形図北側にみられる、等高線の間隔が狭い地形の特色を答えなさい。(3点)

問3 2015年発行の地形図を見て、最も高い三角点(△)のある場所の標高データを答えなさい。(3点)

問4 1919年発行の地形図にある①と②の村落形態名を答えなさい。(各2点)

問5 2015年発行の地形図にある③と④、⑤と⑥の記号は何か。その名称を答えなさい。(各2点)

問6 2015年発行の地形図にある「みどり町」の土地区画について、1919年と2015年の地形図を比較して土地利用との関連で、その特徴を説明しなさい。(5点)

問7 うるま市は、沖縄の方言で「ウージ」と呼ばれる伝統的な農作物の生産地域であった。その農作物について答えなさい。(2点)

問8 1919年と2015年の地形図を比較すると、大きく土地利用が変化している。地形図から読み取れる土地利用変化について、説明しなさい。(5点)

**著作権承諾上の理由により、図
の掲載は控えさせていただきます。
非公開部分については、沖縄国
際大学入試センター窓口にて閲
覧ください。**

図3 1919年発行地形図と2015年発行地形図（2万5000分の1）
『今昔マップ（沖縄本島南部）』より作成

